

校長室だより(No.15)

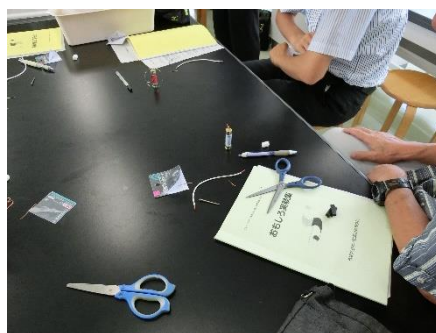
令和3年8月5日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

「サイエンス・トライやる 理科実験・実技」

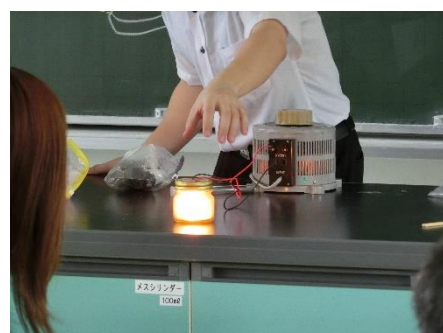
「音」の見える化



まわる「銅線」簡単モーター



光るシャーペンの芯



丹波市の小学校理科を担当する教員を対象としました実験・実技研修会を開催しました。講師は、県内高等学校の先生です。兵庫県教育委員会の事業の一つに「サイエンス・トライやる事業」というのがあります。高等学校の理科の教員が講師となって理科の実験・実技の指導をしていくものです。この事業から講師を派遣いただき、今年は、物理分野の実験・実技を中心に研修しました。

今回の小学校の学習指導要領の改訂にあたり指摘されていたことは、①理科を学ぶことに対する関心・意欲や意義・有用性が日本の場合は、低い。②「観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明すること」などの資質・能力に課題があることです。①②からは、学習への意欲や主体性といったものの欠如が伺えます。子どもたちの楽しみにしている実験等をより主体的で興味を引くものに、より問題解決的な学習につながるものにする事でこれらの課題の解消につながると考えます。

研修会では、次のことについて実技講習を受けました。

3年生 「光と音の性質」・「磁石の性質」「電気の通り道」「物と重さ」…糸電話 ばね電話 発光 風船電話
ストロー笛など

4年生 「空気と水の性質」…大気圧の実験など

5年生 「電流がつくる磁力」「物の溶け方」…簡単電磁石

6年生 「電気の利用」「水溶液の性質」「燃焼の仕組み」…水溶液の色の変化など

どの実験も安価(約100円)で手に入る材料を使用して、子どもたちの興味関心を引くものでした。

全国的な理科離れがいわれている中で、子どもたちに理科の大切さを理解させ、主体的に学び続けさせていくためには、実験や実技といった体験を大切にしたいうえで、実験を「楽しかった」で終わらせずに何のための実験かを指導者自身が十分に理解し、しっかり子どもたちに考えさせていくことが大切だと感じました。